

■2019 年度ビッグデータ人間工学セミナー(第 1 報)

この度, 日本人間工学会 ビッグデータ人間工学研究部会では, 下記のセミナーを開催することになりました. このセミナーは, 関西支部の総会・春季講演会の前に開催するもので, 関西支部および大阪工業大学ロボティクス&デザイン工学部との共催となっています.

講師は名古屋市立大学 准教授の榎原毅先生です. 人間行動の結果として得られるビッグデータは膨大な量になりますが, それがすなわち質も高いものとして扱えるものでしょうか. 今回は, ビッグデータの量と質について榎原先生に詳しく解説していただきます.

ビッグデータ時代の新しい統計のあり方について, ディスカッションの場としたいと思いますので皆様, 奮ってご参加ください.

■日時 2020 年 03 月 21 日(土) 10:00 ~ 12:00 (受付開始 09:30)

■題名 人間工学で役立つ統計学:研究の質と統計

~学生・若手向け教育講演シリーズ 4~

■講演者 榎原 毅先生(名古屋市立大学 准教授)

■場所 大阪工業大学 梅田キャンパス 2 階セミナー室 202

■定員 30 名(予定)

■主催 日本人間工学会 ビッグデータ人間工学研究部会

■共催 日本人間工学会 関西支部, 大阪工業大学 ロボティクス&デザイン工学部

■担当幹事 岡田 明(大阪市立大学), 新家 敦(島津ビジネスシステムズ)

■内容

学生・若手向けの教育講演シリーズとして, 第一回は日本人間工学会第 58 回大会(2017 年 6 月), 第二回は日本人間工学会関東支部第 47 回大会(2017 年 12 月), 第三回は日本人間工学会第 59 回大会(2018 年 6 月)で開催してきました. 好評企画(!?)のシリーズ第四回として, 関西支部で開催します.

近年の AI・ビッグデータ時代において「データをたくさん取ると研究の質が高い」と漠然と捉えている方も少なからずいるかもしれません. 科学的知見の質はどこから来るのでしょうか?

研究のデザインや Risk of Bias, 欠測値のことなど, 多面的な側面で科学的知見の質は定められ, 私たちが当たり前のように使っている p 値は科学的知見の質を限定的に保証しているに過ぎません.

p 値の適切な使用方法について米国統計学会が 2016 年に声明を, また, 全米研究評議会(NRC)は欠測データガイドラインを出し, その内容は The New England Journal of Medicine にて 2012 年に要約論文が掲載されています. 近年の研究の質に関する考え方や統計学の動向を分かりやすく簡単に紹介し, フロアの皆様と一緒に人間工学研究の質を考える機会にしたいと思います.

学生・若手のみならず、シニア・ベテランの皆様にもご参集いただき、一緒に人間工学研究の質向上策についてディスカッションする場にしたいと思います。

■参加費 無料(電子メールにて事前申し込み)

■交通アクセス

大阪工業大学 梅田キャンパス

アクセス <http://www.oit.ac.jp/rd/access/index.html>

※エスカレータで 2 階に上がりセミナー室前の受付にお越しください。(受付開始 09:30)

■参加申し込み

連絡は電子メールにて、事務局 shiny@shimadzu.co.jp 宛てご連絡ください。

締め切り 2020 年 03 月 16 日(月)12 時まで。

<電子メールタイトルを下記としてください>

「2019 年度ビッグデータセミナー 参加希望」

<本文に以下記入ください>

・氏名

・所属

・連絡先メールアドレス

・日本人間工学会 ビッグデータ人間工学研究部会 部会員区分

(部会員 | 部会員でないが学会会員 | 非会員で一般 | 非会員で学生 | 今回入会を希望)

<受付連絡について>

受付後、折り返し電子メールにて連絡いたします。

■問い合わせ先

島津ビジネスシステムズ内 日本人間工学会 ビッグデータ人間工学研究部会

事務局 新家 敦(島津ビジネスシステムズ)

shiny@shimadzu.co.jp

[VERSION 20200206]